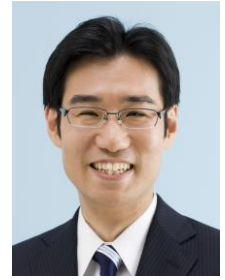


荒川区議会議員

「体は細いが、芯は太い。」

清水ひろし



国民民主党
民主ゆいの会

からの手紙

第 83 号

12 月号

荒川区議会 11 月会議は 12/10 に閉会し、17 本の議案が可決・成立しました。初日の本会議では今年 3 回目の本会議質問に立ち、①台風被害を踏まえた今後の対応 ②来年 4 月の改正健康増進法、受動喫煙防止条例施行後の喫煙対策 ③プレミアム付商品券事業の認識について取り上げました。

今日の数字？

昭和 5 年
(1930 年)

台風被害を踏まえた今後の対応について



質問武蔵小杉などでは、マンションの電気設備が浸水し、電気・水道・トイレが使えなくなるといった、マンション特有の被害、都市災害の死角が浮き彫りになった。

各マンションが、内水氾濫・外水氾濫への対策をするための、専門家による相談体制を整えてはどうか。

答弁水害対策のマンションセミナー開催や、専門家の派遣を検討していく。

質問区発行の「マンション防災対策の手引き」に、風水害対応についても追記をしていく考えはあるか。

答弁追加をしていく。

申請少ないプレミアム付商品券 事業の問題を指摘

質問10 月の消費税率引上げに伴う対策として、政府によるプレミアム付商品券事業が実施された。区内対象者全員が満額購入しても、給付額は 2 億 5000 万円であるのに対し、3 億円の経費がかかることが問題視されてきた。11 月末が申請締切だが、区内の状況はどうか。



答弁区内対象者は 4 万 9000 人。商品券の販売実績は印刷枚数の 16%、プレミアム分の給付額は 4000 万円。商品券をまず購入する必要があること、申請が必要なこと等、制度が複雑であったと認識している。

考え4000 万円給付するために、3 億円もの経費をかけた政府の事業は無駄ではなかったのか。全国的にも申請は約 30%と報道されている。地方自治法が謳う「最小の経費で最大の効果を挙げる」とは言えない政策である。実務を担った現場の自治体として、政府に対して声をあげていくことを求めたい。

清水啓史 (現職 4 期 44 歳 昭和 50(1975)年 5/7 日 荒川区生まれ 卯年 A 型 おうし座)

寛永寺幼卒/根岸小卒/早中・早高卒/早大卒。民主党本部元職員。
平成 19 (2007) 年 荒川区議選初出馬初当選。現在、荒川区議会議員 4 期目。

荒川区議会では文教・子育て支援委員会委員、観光・文化調査特別委員会委員。
国民民主党、区議会「民主ゆいの会」所属。家族は妻と娘 (小 5)。



〒116-0013 荒川区西日暮里 2-28-8

TEL/FAX 03-3801-6325

E-mail info@shimizuhiroshi.com

—隅田川の岩淵水門を視察—

10月の台風19号を受け、岩淵水門（北区）を視察しました。

荒川と隅田川

現在の荒川下流は、昭和5年に完成した人工河川です。本流（現在の隅田川）の増水を抑え、東京を洪水から守るために放水路として造られました。

江戸時代から、当時の荒川（現在の隅田川）周辺では洪水が頻発して起こり、明治43（1910）年の洪水被害を受けて建設が始まりました。

本流（現在の隅田川）との仕切となっているのが、北区にある岩淵水門です。



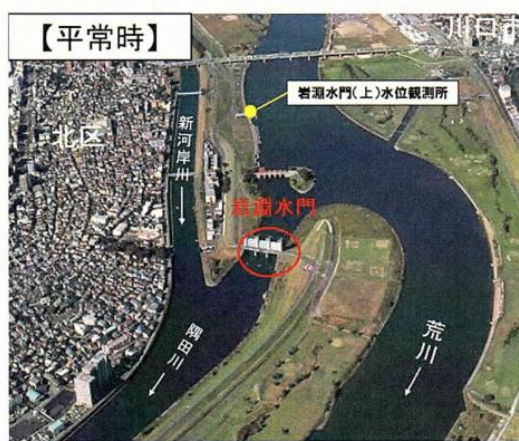
台風19号発生時の状況

洪水時（水位4m）の際は岩淵水門を閉鎖します。荒川に放水することによって隅田川への流入を防ぎ、隅田川の氾濫を防止します。台風19号発生時にも水位が4mに達したため、10/12（土）の21時17分に閉鎖されました。（下グラフ参照）

岩淵水門



【平常時】

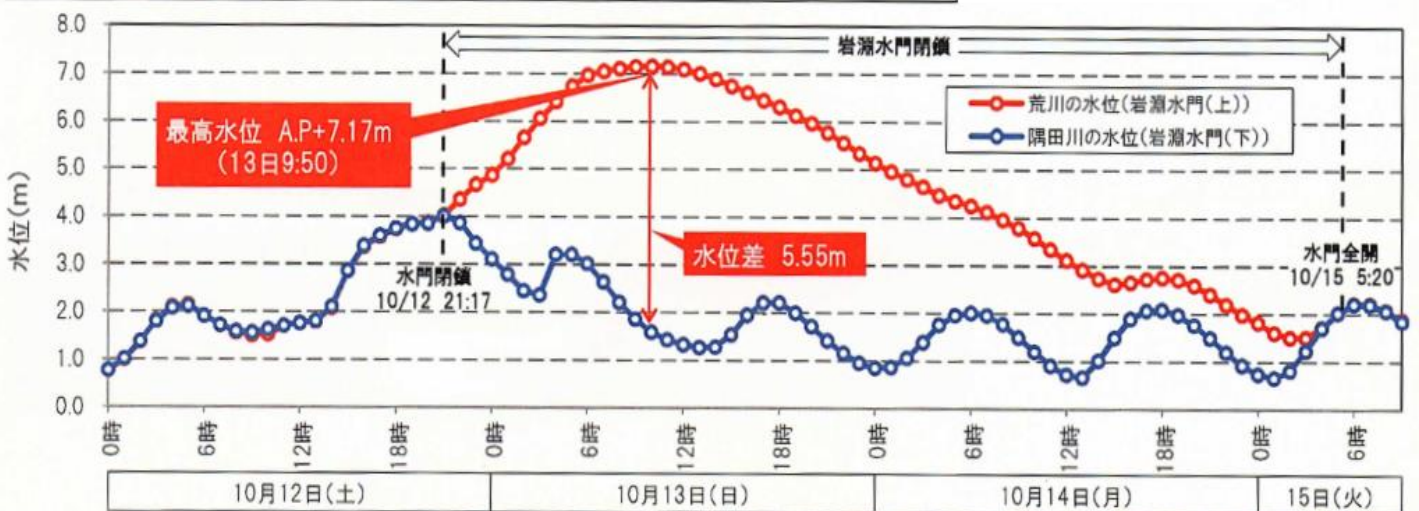


【台風19号】



岩淵水門(上)【荒川側】と岩淵水門(下)【隅田川側】の水位

（台風19号発生時）



今日の数字？ 昭和5年（1930年）：現在の荒川（当時は荒川放水路）が完成した年。明治43（1910）年の当時荒川（現在の隅田川）の大洪水を受け、東京を守るため新たな放水路が20年かけて建設された。昭和40（1965）年に、この人工河川である荒川放水路を「荒川」、岩淵水門から分かれる本流の荒川を「隅田川」とした。このため、現在は荒川区が接している河川は「荒川」ではなく、「隅田川」となっている。